

コロナ禍から 地域の医療の未来を考える

コロナ禍以前とコロナ禍後では
医療を取り巻く体制は大きく変わってしまいました。
今一度“医療とは健康とは何か”を一緒に考えませんか？

日時 令和7年7月6日（日）午後2時～午後4時
受付 午後1時半～
会場 亀田交流プラザ講堂2
住所 函館市美原一丁目26-2 駐車場あり
参加費 **無料**（事前のお申し込みをお願いします）



講師：長尾和宏氏
医師・医学博士/作家

昭和33年生まれ。平成7年、尼崎市に長尾クリニックを開業、外来と在宅医療を両立。「町医者」という言葉にこだわり「町全体が私の病棟、自宅は世界最高の特別室」をモットーに2500人を看取ってきた。また、高齢者の健康、終末期医療、尊厳死・平穏死について硬軟自在な論調で多くの提言を行っている。コロナでは『ひとりも、死なせへん』とコロナ診療、またワクチン後遺症の診察と発信も積極的に行ってきた。『平穏死10の条件』『抗がん剤10のやめどき』『薬のやめどき』『痛くない死に方』『小説・安楽死特区』など、ベストセラー多数。令和5年6月、65歳の誕生日に定年退職。



QRコードから
お申し込みいただけます

主催 道南医療者の会

☎ 090-2815-5075(中村)

※出れない時は折り返します

✉ naka0723529@gmail.com